

## 日々の田高（宮城スタディツアーを実施しました。）

令和8年3月26日から27日にかけて、本校生徒12名は、府中高校の生徒13名とともに、宮城県東松島市、石巻市を訪れました。東日本大震災から15年となる本年、生徒には、現場を訪れる目的として次の4点を挙げました。

- ・災害の現場に触れることで、災害とは何か考え、心理的にも身体的にも災害・減災を自分事とする。
- ・災間に生きる高校生や教職員が、次の災害に備えて、今できることを学ぶ。災害食を体験する。
- ・減災に取組み、まちづくり・コミュニティ作りに取り組む、魅力人に触れる。
- ・訪問する土地の良さを知り、ファンになる。

生徒たちにとっては、東日本大震災は、教科書の話になりつつあります。そのような中で、今回は、自分事とするために、「①大川小学校で佐藤敏郎さんのお話、②日和幼稚園遺族有志の会の佐藤美香さんのお話、③発災後の具体的な状況と対応について（避難所運営、支援物資、地域医療、学校再開、仮設住宅の5分野を当時先頭に立って動いた方の話を聞く）、④災害対応食の体験、⑤現在の石巻の魅力発信に取り組む大学生の案内で回る、⑥宮城の美味しいお刺身盛り合わせを地元スーパーに造っていただき、地域の方と夕食を共にする」という活動を行いました。

1日目の夜、自分の中の思いや考えをしおりに書く時間となると、一人も喋ることなく、黙々と書き続けました。それだけ、生徒たちにとって、大切なことと感じたようです。一日目就寝後、震度3の地震が発生。生徒たちは、窓を開け、先生を呼ぶなど自分たちで行動をしていました。後日、生徒の感想などを含めた報告をいたしますので、そちらもお待ちください。



大川小学校にて佐藤敏郎先生のお話を聞く



集会所で寝袋等を使用した就寝体験



地元スーパーのお刺身おつくり



お湯ポチャご飯。焼き鳥丼を作る。